

まちの名所・旧跡



鏡沼は、別名「かげ沼」とも呼ばれ、現在は、その片鱗を残す沼の跡が、田園の中にひっそりと残っています。古い文献によると、この沼には蜃気楼が起きると言われおり、「松尾芭蕉」も、その著書「奥の細道」のなかで、「かげ沼という所をいくに、今日は空曇りて物影写らず」と、期待した「物影」が見られなかつた心残りを記しています。

鏡沼の伝説

今からおよそ8百年前の鎌倉時代、征夷大將軍源頼朝が亡くなったあと、北条時政の悪政を改めんとして討伐を企てた人の中に、和田平太胤長という人がいました。

しかし策謀は事前に発覚し、遠い北の国(奥州)の二階堂行村(須賀川市)に流されて

しまい、その後、時政が使わした刺客によって殺されてしまいます。年31歳、村人はあまりにもあわれな、悲しい最後に深い同情を寄せたそうです。

鎌倉に残された胤長の妻「天留」は年27歳、夫に会いたい一心から、奥州への一人旅を決めて、山を越え、川を渡り、苦勞に苦勞を重ねて鏡沼付近までたどり着きました。その時通りかかった村人に胤長のことを尋ねると、「むごいことに、旦那さんは役人に殺されてしまった。かわいそうにない。」と言われ、妻の天留は、ガツクリと力が抜け、泣き崩れてしまいました。

その後、天留は、もはや生きる望みはないと、大事に持つて来た鏡を胸に抱き、夫の後を追って、沼の中に、身を投げ、沼の底に沈んで行ったと言っています。

一緒に沈んだ鏡は、いつまでもいつまでも照り輝いていたと言われ、それでこの沼を鏡沼と名づけたと言われています。



プールでリフレッシュタイム!

町民プール招待券

本券1枚でお一人様1回限り
有効期限 平成19年3月31日

鏡石町・鏡石町教育委員会



プールでリフレッシュタイム!

町民プール招待券

本券1枚でお一人様1回限り
有効期限 平成19年3月31日

鏡石町・鏡石町教育委員会